

# 緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション

## 緊急人道支援における Cash Plus アプローチ： 成果と有用性から考える今後の展望

### ■ 要旨

人道支援における現金給付の支援規模は全世界で急速に拡大しており、2022 年には世界全体の人道支援の約 20%を占める約 100 億ドルの規模で実施された<sup>1</sup>。この背景には、現金給付支援が、紛争や自然災害の被害を受けた人々に対する支援や貧困対策として、最も効果的なモダリティの一つとして認識されていることが挙げられる。給付される現金は通常柔軟に使うことができるため、紛争や災害の影響を受けた人々は、自分たちが一番必要としているニーズを優先して満たすことができ、また地域経済を活性化させ復興を促進することにもつながる。

一方で、緊急人道支援における現金給付の中長期的な効果については、食料購入、住居費など世帯の当面の短期的ニーズを満たす用途に大部分の現金が使用され、中長期的な観点で世帯の状況を向上させるための用途に割り当てられることが少ないといった理由から、疑問視されることも少なくない。また、現金給付のみを行う場合には、地域における基本的サービスの提供の有無や質、また世帯やコミュニティレベルにおける知識の有無など、外部要因の影響を受けることで、より大きなインパクトの達成は難しいという懸念も聞かれる。

このため、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) は、現金給付に加えて補完的な活動を同時に行う Cash Plus の手法を用いてきた。補完的な活動とは、裨益者に対する研修・啓発や生計支援、行動変容につなげるための活動を指す。現金給付支援に付随する課題に対処するための活動を組み合わせることで、保健・栄養や教育など特定の分野におけるインパクトを増大させ、持続性をより高めることができる手法として、近年注目されている。

本ラウンドテーブルでは、SCJ がアフガニスタン、イエメンなどの緊急人道支援において実施してきた Cash Plus の事例、共通の成果と課題を紹介し、Cash Plus の有用性についてフロアからの議論を喚起するとともに、日本の NGO が実施する緊急人道支援において、Cash Plus アプローチをどのように位置づけていくべきか、建設的な議論につなげたい。

### ■ 略歴

#### 【座長】

小尾尚子

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 理事

国連難民高等弁務官事務所に約30年勤務。主に難民、国内避難民の保護に関する活動に従事。2018 年より現職。

---

<sup>1</sup> CALP, “The State of the World’s Cash 2023”, November 2023

## 【発表者】

福原真澄

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アジア・中東地域マネージャー

2009 年よりヨルダン及びパレスチナ西岸にて人道、開発支援に従事。2016 年に SCJ に入局し、東京事務所にてシリア難民支援、モンゴル雪害支援等の緊急人道支援を担当。海外事業部緊急人道支援マネージャーを経て、2022 年より現職。

清水奈々子

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2019 年より人道・開発業界に従事。2021 年に SCJ に入局し、アフガニスタン人道支援やウクライナ危機担当となる。2023 年 3 月から 2024 年 6 月までルーマニア駐在員としてウクライナ難民支援事業に従事。

松田友美

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2011 年より人道・開発業界に従事。2023 年に SCJ に入局し、東京事務所にて Bangladesh におけるミャンマー避難民支援を担当。

## ■ セッションの流れ

前半 45 分(15 時～15 時 45 分)で、発表者の福原、清水、松田より、現金給付支援の潮流や Cash Plus の概要、および SCJ がアフガニスタン、イエメンなどの緊急人道支援において実施してきた Cash Plus の事例、成果やその他の調査結果などを発表する。

後半 45 分(15 時 45 分～16 時 30 分)で、座長の小尾氏のファシリテートのもと、発表内容に関する質疑応答、日本の NGO が実施する緊急人道支援における Cash Plus アプローチについて、実施上の課題や解決策も含め今後の展望について参加者と意見交換を行う。